

ワイルドライフ・マネジメント・フォーラム in 札幌

野生動物と共生する 地域づくりを 目指して

2014.11.12(水)
18:30~21:00(開場 18:00)
かでの**2.7 710会議室**

(札幌市中央区北2条西7丁目 TEL.011-204-5100)

今、自然と人が共生する持続可能な地域づくりが求められています。自然環境や野生生物など地域資源を大切にしながら、活力ある産業振興や安定した生活の維持を進めなければなりません。野生動物による農漁業被害の防止、ヒグマと人との共存、絶滅危惧種の保護など、野生動物と人間社会を巡る問題を解決し、共存を実現するにはその核となる人材が重要です。自然と共生する地域づくりに必要な専門家をどう養成するかを考えます。

参加費無料(定員90名)

[申込・お問合せ] 事前申込み要 ※E-mail または Fax で受付

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 事務局
北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10

TEL.0152-26-7770

FAX.0152-26-7773

E-mail:sizendaigaku@wine.plala.or.jp

- ・チラシ(裏面に参加申込書)は、HPからダウンロードできます。
- ・メール等でお申込みの場合は、お名前・所属・連絡先(住所・電話・FAX・メールアドレス等)を明記の上お申込みください。

・開会あいさつ **田中 俊次**

(公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 代表理事/東京農業大学 名誉教授)

・来賓あいさつ **川勝 富士男 氏**

(北海道環境生活部環境局 生物多様性・エゾシカ対策担当局長)

・パネルディスカッション

「野生動物との共存と地域づくり」



コーディネーター

問題提起: 野生動物問題の現状と地域社会

梶 光一 氏

(東京農工大学大学院農学研究院 教授)



報告 1:

知床におけるヒグマとの共存と地域社会

増田 泰 氏

(公益財団法人知床財団 事務局長・主任研究員)



報告 2:

都市と地方の野生動物共存の考え方
~ヒグマの事例を中心に

佐藤 喜和 氏

(酪農学園大学 教授)



報告 3:

共存を実現する専門職とその養成

中川 元

(公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 業務執行理事)

・ディスカッション司会 **梶 光一 氏**

・閉会あいさつ **田中 俊次**

[主催] **公益財団法人知床自然大学院大学設立財団** <http://shiretoko-u.jp/>

[協賛] 厚岸省北海道地方環境事務所、北海道、北海道環境財団、北海道生物多様性保全活動連携支援センター、北海道市民環境ネットワーク、北海道林業協会、北海道新聞社、朝日新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、日本経済新聞社札幌支社、日本農業新聞北海道支所、日本放送協会札幌放送局、北海道放送、札幌テレビ放送、HTB 創路支社、北海道文化放送、テレビ北海道

野生動物と共生する 地域づくりを目指して

参加費無料 事前申込み要 ※E-mail または Fax で受付

2014.11.12(水) 18:30~21:00

かでの2.7 710会議室 (札幌市中央区北2条西7丁目 TEL.011-204-5100)

【講師プロフィール】

コーディネーター・司会

梶光一氏

(東京農工大学大学院農学研究院 教授)

北海道大学で修士号と博士号を取得。30年間にわたりエゾシカ調査に従事し、北海道全域のエゾシカのモニタリングシステムと管理計画を策定する。北海道環境科学センター勤務を経て2006年より現職。知床世界自然遺産科学委員会委員長として知床のエゾシカ管理計画を策定。日本哺乳学会理事長。

パネリスト

中川元

(公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 業務執行理事)

1973年北海道大学農学部応用動物学専攻卒業。中津町農林課勤務を経て斜里町立知床博物館学芸員、知床財団事務局長、知床博物館館長を歴任。2013年より現職。鳥類を中心に知床の生物調査や野生動物保護に携わり40年になる。知床世界自然遺産地域科学委員会委員。

パネリスト

増田泰氏

(公益財団法人知床財団 事務局長・主任研究員)

1992年北海道大学獣医学部家畜臨床繁殖学専攻卒業。斜里町立知床博物館学芸員、斜里町環境保全課自然保護係長、知床財団事務局長を経て2014年より現職。知床地域の生物調査や自然教育活動、世界遺産登録業務に携わり、現在は遺産地域の野生動物保護管理や調査活動に従事。獣医師。

パネリスト

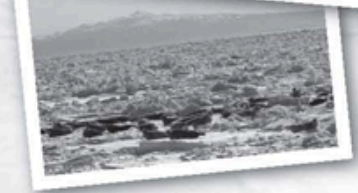
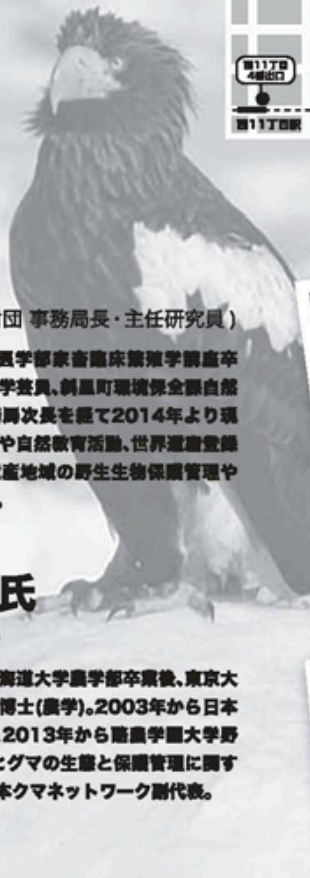
佐藤喜和氏

(酪農学園大学 教授)

1971年東京生まれ。北海道大学農学部卒業後、東京大学大学院博士課程修了。博士(農学)。2003年から日本大学森林動物学研究室、2013年から酪農学園大学野生動物生態学研究室でヒグマの生態と保護管理に関する研究を行っている。日本クマネットワーク副代表。



会場地図/かでの2.7 710会議室



公益財団法人知床自然大学院大学設立財団について

2013年1月「知床に大学院大学をつくる」ことを目指して設立されました。
2014年1月に内閣府より公益財団法人に認定され、8月には税制控除証明書を受領しています。

<設立趣意書(抄)>

近代以降、世界的規模で繰り返された発展と成長は、自然環境の破壊や汚染、地球規模の環境問題を引き起こしました。人間が自然を越える存在であるかのような文明そのものが、今問われています。私たちは生命圏の宇宙的秩序を尊重し、その完全なる調和の中に人間が存続し続ける道を探り、実現しなければなりません。野生動物と人間社会との間には様々な問題が生じています。(略) そのためには、自然と人間とのあるべき関係を示す新しい思想を創造し、実現のための戦略や技術の創出、それらを担い自然環境や野生動物と人間社会との関わりを追求する研究者や専門家の育成が急務と考えられます。2005年に世界自然遺産に登録された知床半島は、この理念に基づく研究・教育を行うために最も適している場と考えます。(略) 「知床自然大学構想」は、1986年に策定された斜里町総合計画に盛り込まれて以降、町、民間レベルの知床自然大学ワーキンググループ、官民協働の知床自然大学構想づくり協議会と20年以上にわたって検討されてきました。この構想を引き継ぎ、自然との共生を目指す国内・世界のニーズに応えられる研究と人材育成を行う大学院に相当する高等教育機関「知床自然大学院大学」を実現するために、財団法人を設立し、開設に向けた準備を行うものです。

参加申込書 FAX.0152-26-7773 E-mail:sizendaigaku@wine.plala.or.jp TEL.0152-26-7770

お名前 (フリガナ)

所属 (一般参加の方は記入不要)

ご住所 〒

電話

()

FAX

()

E-mail